

平成28年度 佐久長聖高校 学校自己評価

学校教育方針	中・長期的目標	今年度の重点目標
1. 礼節を重んじ、忍耐強く、誠実な人材の育成を図る。 2. 一人ひとりの個性を尊重し、授業・クラブ活動・館(寮)生活を通して、豊かな教養、感性、心身の健康を身につける。	1. 積極的、自主的な態度を養う。 2. 希望進路の実現をめざす。 3. 教職員の指導力を高める。 4. 校外から理解・支援される教育活動を展開する。	1. 生徒の様々な意欲をより高めることのできる学校づくり ・学習・生活・課外活動・館などすべての分野で、指導方法を模索し、質を高める。 ・ICTを導入し、活用を広げていく。 ・生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 2. 生徒の安全と安心の確保

評 価	A	十分
	B	概ね十分
	C	やや不十分
	D	不十分
	E	評価できない

評価①：各自の取り組みについての自己評価 評価②：本校全体や各部署についての 本校教職員としての評価

分野	評価項目	評価の観点	評価①	評価②	成果（具体的に何ができたか）	今後やるべきこと、実施に当たっての問題点
学 習 指 導	授業内容の充実	1 授業評価を適宜行い、その内容を踏まえて授業の方法を工夫・改善して、生徒の学ぶ意欲を喚起しているか。	B	B	・1学期末に授業アンケートを実施。その際、どのような質問項目が生徒と教員双方の成長に繋がるかについて自主研修を行った。各教員が節目節目に記述や対話を通して生徒の要望を聞き、また、模試や考査の結果を授業評価としてもとらえて、授業改善に生かした。	・授業アンケート:定期化、結果の共有と相互研修 ・基礎力不足の生徒の意欲喚起の諸方法を研修し共有すること ・学習指導の工夫が定着度や学力の伸びと結びつくようにすること。
	教科指導力の 向上	2 研究授業のほかに教員相互の授業参観や相互批評をしているか。アクティブラーニングの手法を試みているか。	C	C	・延べ5回の研究授業を行い、教科の枠を越えた研修ができた。・相互参観は数学科で行えた。・授業展開の中の一要素として意図的にアクティブラーニングの手法を採用する教員が増えた。(ただし、この名称が一般化する以前から生徒の能動的学習を仕組んできた教員は多い)	・少しでも時間を生み出して相互に研修したい。・アクティブラーニングを成立させる生徒自身の素養(基礎知識・聞く読む話す力・調べる力など)も育てていく必要がある。
		3 各種の模試・検定などの客観的データを教科会や各自で分析し、生徒の学力に応じた授業を行っているか。	B	B	・模試結果を分析し、弱点分野の補充をしている。さらに、前年度同時期の模試結果の分析を元に、弱点になりやすい項目は、予め授業で丁寧に扱ったり、模試前に補強をしたりして模試に臨ませる科目もあった。各生徒の模試結果の蓄積を、入試対策指導のしかたにも生かした。	・模試の後ではなく前の学習に繋げ、生徒自身の手ごたえとなるような指導方法を共有する。・英語検定合格率を上げる(必要性が増し、かつ難化している)・TOEFLにも意識を向け、受検者数と得点を伸ばす。
	学習習慣の確立 と自主的な学 びへの導き	4 (学級担任として) 生徒の学習状況・学習時間を把握し、面接によって個々に即した適切な助言をしているか。	B	B	・学級担任は面接や対話、学習時間の把握などを日常的にしっかりと行っている。学習記録を提出させることで、生徒も自己を省みることができる。	・生徒自身が記録や計画を通して、自分のスケジュール管理ができるようにしていく。・生徒と話した内容を保護者とうまく共有すること。
		5 (教科担任として) 学力や時期に応じて質的・量的に適切な課題を出して、日々の学習や計画的学習を促しているか。	C	C	・時期を考慮したり、担任や他教科担当者から話を聞いたりして、自分の教科で出す課題量を調節することができるようになった。・同じ課題でも学力に合わせた助言を添えて取り組ませている。	・「質」が大切な生徒・内容、「量」が大切な生徒・内容とがあり、各々に合う課題を出していくこと。・計画性を高め提出期限が守れるようにすること。
		6 生徒のタブレットPC利用を促すような学びの課題や機会を、工夫して提供しているか。	D	D	・学校で契約している各種インターネット学習サービスの中から、学習動画(受ける模試の対策や復習など)・Webテスト等を紹介したり課したりし、利用生徒も増えてきた。・Classiを通じて、生徒同士の学習が行われた(特に数学オリンピック・英作文)。・教科や小論文に役立つ新聞記事の紹介や進学情報の提供などを試みた。	・授業の中で使用すること。・生徒が継続的に探究できるようなテーマを提供し、発表の場も設けること。・家庭のネット環境の把握 ・試行錯誤段階の現在、進んで取り組んでいる教員の時間的負担は大きい。
進 路 指 導	希望進路の実現	7 学級担任・教科担任として3年間を見通した指導をしているか。学年会・教科会がそのために機能しているか。	B	B	・情報交換をしながら相互研修ができています。各学年の各学期になすべきことを進路と絡めて指導している。・自主性・計画性・思考力なども意識して伸ばそうとしている。	・大学入試改革への移行期なので、従来通りの学力・得点力と、新しい学力の伸長の両方を大切にしなければならない。
	新しい時代を展望 できる進路指導	8 社会への視野を広げ、自分の人生の目標を考える機会としてのキャリア教育を、計画し、実施しているか。	C	C	・2学年が充実したキャリア教育を実施した。事前計画に生徒が携わり、講演後にはグループに分かれて講師陣と対話する場も作った。・夏期休業を長くすることで大学のオープンキャンパスやイベントへの参加を勧めた結果、1・2年生の参加が増えた。	・1学年からの計画的な実施。・学校として系統的に行うものと、いろいろな仕事をしている卒業生を招き対話するような小回りのきくものとの両面で、機会を増やしていく。
生 活 指 導	自律的生活の育成	9 服装・挨拶など生徒の自律的取り組みを促しているか。モラルや思いやりにつながる、心の指導をしているか。	B	B	・SHRや授業の時間に様々な形で行っている。・以前の立門指導のような管理型の指導から、気づいた時に声をかける指導に移行している。・生徒に対して、注意することより「ありがとう」を言うことを大事にした。・教科の学習内容を通して、心の指導を行っている。	・いわゆる問題行動はなくても、日常的に意識しないとモラルは低下していくので、教職員自身の意識を高く持って、時と場合に応じた指導を全教職員ができるようにしていく。
	生徒相談とい じめの発見・対 処	10 担任・学年・部活顧問・館職員・生徒指導係等が連携を取りながら、適切に生徒相談に当たっているか。	A	A	・生徒や保護者からの相談や生徒の様子・変化などについて、日常的に関わる教職員の中で情報交換し、速やかに対処することが、ほほできた。・Classiの職員グループの中で生徒の活動・活躍を掲載し、良い情報にも共有できるようになり、声掛けに役立っている。	・連絡の漏れがないようにしていく。・生徒を第一に考えて対応するが、保護者への連絡・報告も遅くならないようにする。・SNSなどネット上のトラブルは小さいうちに把握するのが難しい。
		11 現在の「いじめ」の定義(注)に基づいていじめを認知し、職員間で情報を共有して適切に対応しているか。	A	A	・面談・学校生活アンケートの実施などでも把握に努めているが、日常的に授業や部活動・館で接する教職員が変化や異状を感じた時、看過せずに対処、報告することがほほできています。	・大きな事案はなくなってきているが、油断せずに発見・対処、事後の見守りや助言をしていく。
	安心・安全を守 る指導、安全を 考えさせる指導	12 校内の安全点検や日常の目配りを重視し、事故や危険を防止できているか。	A	A	・校舎改築工事中のため業者との連絡を密に行い、危険予想箇所への対策を取ってきた。・教員が授業のため校内を広く移動すること、毎日、教員も含め全員で清掃することが、点検や危険防止に役立っている。・防災教育としてLHRで、場所や状況ごとの対処法や避難方法について具体的に考えさせた。	・工事に関わらない箇所も含め、安全対策には引き続き留意する。・安全や省エネのためにも新校舎の設備の機能を理解しておくこと。
		13 校外での交通安全や防犯(インターネットによるトラブルの回避も含む)についての指導をしているか。	C	C	・校外指導は苦情をいただいた時などの、単発的な指導になってしまった。・ネットに関わるトラブル防止については、新入生への講話、1年女子への講話、2・3年生の情報の授業での学習がある。	・自転車や列車のマナーや安全の指導。・部活など解散時刻ではなく実際に帰宅している時間を把握して、安全意識を喚起する。・ネット利用の現状調査 ・意識を高めるための継続的な指導・情報提供。
開 か れ た 学 校	開かれた学校 づくり	14 保護者や地域の方の意見・要望をくみとり、必要なことには、すばやく、的確に対応しているか。	B	B	・担任は要望があれば休日でも遅い時間でも何度でも、保護者との面談・電話相談に応じている。・長期休業明けに学校への要望を記述・提出していただいている。	・生徒のために対処するべきことには最優先して取り組む。保護者の方とのコミュニケーションを日常的なものにしていく。
		15 電子媒体や紙媒体を通して、各種の情報を生徒・保護者や一般に向けて、定期的に提供しているか。	B	B	・Classiの導入により、学校からの通知や模試結果等のお知らせがこまめにできるようになった。・オクレンジャーの活用ができています。オクレンジャーによる配信はほとんどのご家庭で見いただいている。・ホームページに行事のニュースや毎月の新校舎建築風景を掲載している。	・Classi利用拡大:どの教員・学年でもできるように。掲載を見ただけのように、不備をなくしたり、内容を向上させたりする。双方向機能も利用できるように。・ホームページの構成がわかりにくいので再構築したい。
		16 地域の方や校外の団体等と交流できる機会を、生徒に提供しているか。学校として交流に寄与しているか。	B	B	・部活動やその応援支援をいただくこと通じての交流がしっかりとできています。・音楽・スポーツ・社会福祉など地域の催しに部活動や生徒会として参加。降雪時の雪かき。・病院での医師体験・模擬手術などへの参加。・文化祭での交流・台湾からの修学旅行生との交流会。	・地域の催しやボランティアの情報を広く提供し参加を促す。参加しやすいように、一律一斉の補習をなくし、学習・部活動・地域参加など生徒が選択できるものを設けていく。・同窓会との幅広い連携。

(注) 一定の人的関係がある生徒の中で、一方が他方に心理的・物理的な影響を与える行為をして、対象となった生徒が心身の苦痛を感じていること。一時的なものや謝罪して解決したのも、「いじめであった」と考える。